

講義名	産業社会学			授業形態	
担当教員	栗田 真樹	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現代社会は「産業社会」とも呼ばれ、「産業」によって「社会」の一つの特徴を明らかにすることができる。労働することで生活の糧を得て生きていかなければならないことを考えれば、産業も労働も人間にとって重要な位置を占めるものである。また、今後、人びとの生活や行動、考え方の変化やニーズに基づいて、生活を豊かにするための新たな事業を創造しなければならない。この講義では、現代社会における産業と労働を中心として、産業社会としての現代社会の諸相を概観する。「産業社会」を考えるための基礎的知識と分析のための考え方を修得することがこの講義の目的である。

到達目標

- ・現代社会における産業と人々の労働について理解する。
- ・興味関心のある産業の領域におけるビジネスモデルについて考えることができる。
- ・今後の社会と産業の関係、ならびに新しいビジネスモデルを提案することができる。

提出課題

平常期は、授業内で配布する教材に基づいて学習し、毎回授業内課題を提出する必要がある。課題の提出がない場合は平常点が低くなるので注意すること。課題提出はキャンバスクロス、Respon等のクリッカー、Microsoft Teams、Microsoft Formsを予定している。これらについては授業で解説指示する。学期の中間期にレポート試験と学期末に筆記試験を予定している。詳細は講義内で指示する。なお、明らかなコピー＆ペーストによる課題提出は関与した全員を0点としううえで、関係各所に連絡するので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説を行う。

評価の基準

平常点（授業内課題）、中間期のレポート試験、期末期の筆記試験により総合的に評価する。
 1. 平常点： 講義内課題等 40%
 2. 中間期： レポート試験（理解度確認試験：記述式）20%
 3. 期末期： 筆記試験（記述式）40%

履修にあたっての注意・助言他

平常時は、授業内で配布する教材に基づいて学習したうえで、授業内課題を提出する必要がある。授業内の学習なしに課題のみに答えていることが明らか場合は平常点を減点する可能性がある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

担当者作成のプリント資料（PDF）を配布する。参考文献については適宜紹介、指示する。

授業計画

- 1 産業社会学のイントロダクション
- 2 社会学の基本的考え方 経済と社会、集団と組織
- 3 産業化の概念と定義、工業化・機械化
- 4 日本の産業化 サークル産業化、第三次産業の隆盛
- 5 脱物質主義と脱産論
- 6 企業文化とコミュニティ
- 7 企業と労働、労働者の権利
- 8 グローバリゼーションと企業
- 9 多国籍企業と外国人労働者
- 10 産業社会と消費社会、消費者行動
- 11 地域と産業、地域ブランド
- 12 新しい産業と事業創造、ビジネスモデル
- 13 人びとのニーズと生活文化産業
- 14 多様化・融合する産業（第一次産業、第二次産業、第三次産業の融合）
- 15 まとめ 今後の産業と社会

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。具体的には、授業前に各回の授業内容についてインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（1時間）、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（1時間）、2時間×15回で計30時間です。また中間期のレポート、期末期の筆記試験には各15時間程度、計30時間の学修が必要と考えます。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 以上の学習のディプロマポリシーを達成するための産業に関する社会的な専門知識を提供し、実践的に活用できる能力を修得します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教材はキャンバスクロスにもPDF等でアップロードする予定である。アプリとしてはMicrosoft Teams、Microsoft FormsとRespon等のクリッカーが利用できるようにすること。なおこれらについては授業内で解説指示する。

実務経験の有無及び活用

備考

授業において学習したうえで、授業内課題を提出することが求められる。授業への出席、それに基づく課題提出がない場合には平常点が低くなるので注意すること。また、明らかなコピー＆ペーストによる課題の提出は関与した全員を0点とするので注意すること。